

パブリックコメント等のご意見と意見に対する市の考え方

No.	意見概要	対応措置
意見 ①	<p>安全・安心なまちづくりを標榜する割には防災関連の事業の明記が少ない（無いに等しい）のが気になりました。総合戦略書が全ての事業を表記するものではないにしても現在進行形のエリア放送やw i h i 環境の整備等の記事までが載っていないことはあり得ません。また行方市には現在1230名の消防団員が所属しておりますが、その数値も茨城県内でも第3位の陣容であることも「知る人ぞ知る」なのではないですか？ もっと一般市民の目線を意識して「このくらいは市民なら知っていて当然」の考えを捨てて欲しいと思います。今後の消防団に期待するものは「火を消す」等ではなく気候変動等による数十年に一度の大雨や土砂災害等の防災減災活動へ移行しています。そして地域コミュニティがなぜ必要なのか、災害後の地域づくりには住んでいるまちづくりには何が必要なのかをもう一度市民に考えてもらうような指針も必要だと考えます。市民の多くは既に5年前の東日本大震災被害も2年前の台風26号の被害もすっかり忘れていました。市民に「気づき」を与えるような防災・減災のページ作成をお願いします。</p>	<p>防災の分野だけに関わらず、まちづくりのすべての分野において、市民の皆さんが安全、安心な生活を送ることができることは、基本だと考えております。</p> <p>総合戦略書では、それぞれのプロジェクトにおいて、市民の皆さんが安全、安心な生活を送るために、地元産業の活性化による雇用の確保、誰もが生き生きと暮らせるような健康づくりや地域づくり、子育て環境の充実などを掲げております。</p> <p>また、それぞれのプロジェクトにも必要なことですが、情報発信の強化を第5プロジェクトで掲げております。いろいろな手法を活用して、子どもからお年寄りまで情報を共有する仕組みを作っていきたいと考えております。</p> <p>ご意見のあった市民、地域が主体となる防災関連の取り組みについては、行方市地域防災計画により積極的に取り組んでいきます。</p>
意見 ②	<p>国やその機関統計によって人口減少に歯止めをかけるべく多くの自治体がまるで「住民を奪い合うかのような」施策を講じてビジョンを展開しておりますが、このような机上の数値で人は住み替えるものでしょうか。人は自分が住みたいところに住み、嫌なところは去っていきます。隣の住民を近郊の自治体が奪い合っても意味はありません。</p> <p>話が飛びますが観光事業とは「明るい光るところを観に来る」から観光なのです。暗かったり安全でなかったりする場所に決して、誰も行こうとはしませんし住むなぞは話の他です。素晴らしい観光資源山盛りの行方市民がその無限な資源に気がついていないと思われます。現在地元に住んでいる市民がその良さに気が付かないのに他の地域の方が理解を示して住んでくれるとは思えません。これは特に観光に限ったことではないと思います。そして総合計画は行方市自治の独自性を謳うものですが、近郊の鹿行地域全体で協力する姿勢も盛り込んではいかがでしょう。そこで初めてキラリと光るものに吸い寄せられて飛んでくる貴重な住民が増えてくると考えます。</p>	<p>ご意見のとおり、近隣市町村と住民の奪い合いをしていたのでは、当地域（鹿行地域）全体の発展は見込めないと考えていることから、鹿行地域全体の観光を発展させ、交通の便をよくすることなどに取り組む鹿行DMOの立ち上げや、公共施設の相互利用なども施策に掲げております。</p> <p>これらの取り組みを中心に、医療、雇用、子育ての分野などにも広域連携の取り組みが発展していくようにしていきたいと考えております。それぞれの地域が持つ魅力を十分に発揮し、地域全体を活性化していきたいと考えております。</p>

<p>意見 ③</p>	<p>この戦略案の骨子は市民がいかに自立し、街のために何をするのかに街の復活、再生にかかっていると云っているのです。では、そのためには、個々の市民はどのような方法でこの街の再生に関われば良いのか？具体的方策の提示をして頂きたい。例えば、選挙は一つの方法ですが、違います。NPO法人の設立。ボランティア活動のための活動体の設営。行動・活動主体が欲しいわけです。良いアイデアがあっても、役所が行動主体になる事が不可能なわけです。そのアイデアを具現化する主体をどのようにつくるかが問題ではないでしょうか？</p> <p>それらをつくることに行政がアドバイスをしなければいけないと思います。ある役所はNPO設立に関して親身に手伝ってくれる課がありました。法的な問題、書類作成、申請、それに会議など、面倒な手続きをお願いできました。可能なのでしょうか？</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 行方市のサポーターを全国に作りたいです 2) ソーシャルインパクトボンドの使用 3) スタディプラスアプリを使用しての教育革命 4) 地元の世界的画家の Ay-O のギャラリー見学を可能にする。世界から客が来る 5) 結界をつくりましょう（鹿島神宮、大洗磯前神社、国王神社） 6) 世界に通じ、デザイン的に展開の聞く市旗を作り、その旗のもとに全国からやる気のある人を募りましょう 	<p>P.8 の 3 つの基本理念で記載しているように、行政の取り組みに市民を巻き込むのではなく、市民の活動に行政がどう巻き込まれていくかを、みんなが主役のまちづくりとして、基本理念の一つとしております。市民が活動を起こすためのヒントが、それぞれのプロジェクトに記載しております。市民が活動しやすいように、個人や地域やNPOなどではできないことを行政が行っていきます。よって、NPOを立ち上げたいという市民の方がいましたら、必要な人材をつないだり、書類作成などの事務の相談ができるような部署を立ち上げていきたいと考えております。</p> <p>総合戦略書の着実な実現を図るため、各プロジェクトで具体化した施策に基づく事業の内容及び実施時期を明らかにする実施計画を策定しております。実施計画の策定において、ご意見にあるような取り組みを参考にしていきたいと考えております。</p>
<p>意見 ④</p>	<p>「総合戦略書」という表現が、わかったような、わからないような言葉です。せめて表紙の「行方市総合戦略書」の上だけでも、小さくていいので、～みんなが進めるまちづくり計画～ と入れてはどうでしょう。</p>	<p>ご意見のとおり、表紙の「行方市総合戦略書」の近くに「～みんなが進めるまちづくり計画～」を記載します。</p>
<p>意見 ⑤</p>	<p>アンケート結果にある「市民が考える課題」ですが、何度読んでも「市民が考えるべき課題」の意味に思えてしまいます。「市民の意見」くらいのほうが、わかりやすいと思います。</p>	<p>本市の各行政分野における市民の満足度や市の特徴、今後のまちづくりに求めるものなどを幅広い意向把握を行うために市民アンケートを行いました。</p> <p>現状とあるべき姿の差異（問題点）を解消するために必要なことが課題だと考えております。「市民が考える課題」では、アンケートを分析したことにより見えてきた、行政分野における問題点を解決するために必要なことを記載させていただきました。</p>

意見 ⑥	<p>戦略についての問い合わせ先を「総合戦略課」として表4に明記されていると、市民としては何か聞きたい時に連絡しやすいです。</p>	<p>「行方市総合戦略書」におけるお問い合わせ先として、巻末に記載させていただきます。</p>
意見 ⑦	<p>具体的な計画がはっきりわからず実現が心配な施策></p> <p>◆プロジェクト1</p> <p>1) 農業に関する教育機関の誘致活動</p> <p>2) 観光入込客数 40万人</p> <p>◆プロジェクト2</p> <p>1) 高齢者の移動手段の確保:バスやタクシーを組み合わせた路線整備</p> <p>2) 認知症徘徊高齢者の見守り:見守り隊の構築</p> <p>◆プロジェクト3</p> <p>1) 市民活動センターの設置</p> <p>◆プロジェクト4</p> <p>1) 障がいのある子どもへの支援:子育て世代包括支援センターと人材の確保</p> <p>2) 各公民館、地区間での一時預かり体制の構築</p> <p>計画であって、のちにPDCAによって進めていくのかもしれませんが、3つの基本理念にある「身の丈にあった市政運営」の観点から、実際どの程度実現が可能か、再考されてはいかがでしょうか。</p>	<p>総合戦略書の着実な実現を図るため、各プロジェクトで具体化した施策に基づく事業の内容及び実施時期を明らかにする実施計画を策定しております。実施計画の策定において、ご意見にあります取り組みや指標については、特に具体性、や実効性を高められるように検討していきます。</p> <p>なお、実施計画は必要に応じて見直しをしていきます。総合戦略書の理念や基本的な考え方にそぐわない計画の場合には、PDCAサイクルの評価により、見直しを図ってまいります。</p>
意見 ⑧	<p><内容に加えていただきたいこと></p> <p>◆プロジェクト1</p> <p>1) 野菜の総選挙のこと</p> <p>◆プロジェクト2</p> <p>1) 地域包括センターが1カ所で、担当者も少ないことが上がっていました。行政の取り組みにその改善方法を入れてほしいです。</p> <p>2) 「健康」と「スポーツ」の横のつながりを、行政として推進していくことも話にできました。とても重要な要素だと思います。</p> <p>3) 健診に来られない人のために、健診用のバスがあるという話もありました。来ることができないなら、出向くという行政の姿勢をアピールすることも健診受診アップには必要ではないでしょうか。</p> <p>4) 【施策4】誰にでもやさしい地域づくりの「市民～取り組み」には、下記のような意見もありました(1/21の資料より)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者や独居高齢者の情報を地域で把握、共有し、見守りやすい体制を作る ・スポーツ大会、食事会などを開催し、障がい者と接する機会を作る 	<p>総合戦略書の着実な実現を図るため、各プロジェクトで具体化した施策に基づく事業の内容及び実施時期を明らかにする実施計画を策定しております。実施計画の策定において、ご意見にあるような取り組みを参考にしていきたいと考えております。</p>

<p>意見 ◎</p>	<p>土日のみ行方市で生活している位置づけで意見などおこがましいですが、友人からの連絡で本計画を知りましたのでメールさせて頂く次第です。地元部落（あえて昔の言い方で）にすんで、「隣は嫁さんがいない、その隣は子どもが出ていって跡継ぎがない等々、後10年20年した25%くらいしか住人がいなくなってしまうのはどうなるのだろうか？」くらいしか意識していないものです。正直、通勤できる職場、学校、病院、サービス施設が行方市でなくてもあればと思うのも正直なところですが。</p> <p>しかし、この程の我が町の取組に少々驚かされましたので気持ちを変えてみたいと思いました。仕事柄、市への提案書作成の為、〇〇市の〇〇計画書を拝見することがあるのですが、ほとんどは、有識者？が書かれた金太郎飴の計画書に見えます。それに対し、すべての市民が「自分事」として感じる取組を目標とすることにすばらしいと感じました。より多くの市民の意見を頂く。より多くの問題提起、反対意見を出してもらおうかが財産と思います。多様な立場での意見、意見を出しづらい方、苦手な方も含め、できればすべての方の意見が得られれば良いと思います。バラバラな意見でOK、取りまとめはアドバイザーの有識者をお願いして。その意味で、100人委員会だけでなく、その延長でより多くの市民参加ができる、意見を出しあえる仕組みがあればさらに良いと思います。</p> <p>プロジェクトに関しては、重要なテーマばかりです。自分としては、行方市（田舎）にあって都会に少ないもの、近所付き合いからはじまる「ふれあい」をテーマにしたいところです。家族、ご近所、親戚、同級生、友達、趣味、仲間・・・「ふれあい日本一」これも手段ですが、「情報発信で日本一プロジェクト」もそのひとつの現代における手段になると思います。</p>	<p>本市の総合戦略書の特徴として、市民、市議会、行政が三位一体となり、みなさんが行方市のことを自分事として考え、当事者意識を高めてもらえるように、策定段階から積極的に関わっていただきました。なめがた100人委員会の委員の中には、参加したことが契機となって主体的に地域づくりをスタートする取り組みが生まれています。背景には、委員会の中でテーマ別に現状把握と取り組むべき施策の議論を行い、その議論が「言いつばなし」で終わらないように、必ず議論の課題と改善提案を記載していただいたことにより、「自分事度」が高まったからだと思っています。</p> <p>計画策定はあくまでスタートで、計画の内容を市民全体で共有し今後いかにして実行していくかが重要だと考えております。実行するうえで、各行政分野においても、今回のなめがた市民100人委員会の手法を積極的に取り入れ、できるだけ多くの市民の皆さんの声を聞き、皆さんと一緒にまちづくりを進めていきたいと考えております。</p> <p>また、ご提案をいただきました取り組み、サービスにつきましては、実施計画を策定するうえで参考にしていきたいと考えております。</p>
-----------------	--	--